

## 第20回薬害根絶デー報告

文部科学省協議

日時 8月24日午前10時～11時30分

会場 文部科学省3階共用第6会議室

参加者 文部科学省 小松文部科学審議官他20数名

小松文部科学審議官今年で3回目

薬被連他関係者 約50名

○医学部、薬学部、歯学部ではすべての大学で薬害教育実施。看護学部が少なかったが、増加してきている。モデルカリキュラム改訂で、医学部でも薬害問題を扱うようになってきている。

○「薬害を学ぼう」全国の中三の生徒に配布。今年7月に改訂され、DVDが作成されバージョンアップ。学習指導要領改訂の中で、薬害というものを中高の社会科等で入れていくとか、指導主事などが集まる機会に文科省が積極的に活用するように伝えているとのこと。

○HPV被害者調査については不十分ながらも、5年前に実施して、かなり深刻な被害が出て、社会問題化。厚労省マターになってから、文科省は厚労省に配慮しているのでは。もっと関わって欲しいと要望。

○養護教諭に対してワクチンで困っている人への対応について、どのような内容を教えて欲しい。後日、送ってくれることに。



る大学もあり。

○就労関係で十分な対応が出来ていないのではないか。インターシップを活用できないか。小、中、高、大学等では就学児童・生徒に配慮しているが、就労関係で十分な対応が出来ていないのではないか。インターシップを活用できないか。

○カルテ開示は国立大学では無料だが、私学14校有料で5000円とっている大学もあり。

## 厚生労働省前抗議行動

### リレートーク

写真 菅元首相が演説

リレートークでは、たくさんの方々からアピールして頂いたが、他にも川田龍平氏、肝炎訴訟武田氏、HPVワクチン訴訟原告の学生やご家族などが被害の訴えや早期解決を求めた。



## 碑の前行動

風雨の影響を考え、今回は、会場を厚生労働省共用第6会議室に変更して、開催された。

挨拶をする加藤厚生労働大臣



加藤厚生労働大臣は、全国薬害被害者団体連絡協議会から要望書を受け取り、『誓いの碑』（※1）の趣旨を改めて心に刻み、私をはじめ、医薬行政に従事する厚生労働省の職員一人ひとりが、その職責の重さを忘れることなく、医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に最善の努力を重ねてまいります」と述べました。

この要望書の受け取りは、平成12年以降、「誓いの碑」が設置された8月24日に毎年行っています。

※1 誓いの碑

厚生労働省は、血液製剤によるHIV感染



のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないように、その決意を銘記した「誓いの碑」を、平成11年8月24日、正面玄関前に設置。

## 厚生労働省協議

14:00～16:00

厚生労働省 12階

参加者 約20名

薬被連他関係者 約60名

重点項目

○薬機法について、HPV問題、イレッサの追加などを協議。

特にHPVについては、一時間近く使用。



全数調査を実施するように要望したが、回答では、PMDAや医療機関を通じて情報が流れてくるので、また保護者からの報告がある仕組みもあるので、把握できているとのことと考えている。しかし、過去に田村元大臣の時にも追跡調査したが、漏れが指摘されたケースあり。国が指示しないから、各自治体でも出来ていないところもあり。なぜ出来ないのかと突っ込むと、出来ない主旨は個人情報や枠組みの問題などで出来ないとのこと。薬被連としては理由にならない。個人情報について気をつければ出来ると話す。

厚労省は出来ない理由はないのだから、やる方向で検討が出来ないので終わる。する、しないは今後。

接種台帳は全県で揃っているが、全数調査を出来るというのは初めてなので、この機会を使って、新しいワクチンを使用したときにどのようなことがおきるのか、おきたときに厚労省はどのように把握して、どのように対応していくかなどのスキームを検討できる機会なので、実施できるようになったときにはその時には薬害当事者も参加できる仕組みを考えて欲しいと。

当事者19歳の女性もどのような状態であるか、現在の状況を涙ながらに訴えていたが、認識する力が劣ってしまっていた。